

国土交通省 豊橋河川事務所  
矢作川流域圏懇談会 事務局

矢作川河川敷への自転車・歩行者道の整備について（情報提供）

国土交通省では、自然豊かで貴重な公共空間である河川敷地について、治水上、利水上又は河川環境上の支障が生じないように配慮しつつ、快適でにぎわいのある水辺空間の創出を推進しています。

近年、資源としての河川利用がこれまで以上に重要となってきたことから、河川を有効に活用するため、河川空間のオープン化、かわまちづくり支援制度やミズベリングプロジェクトなど魅力ある水辺空間の創出を推進しています。→ P4

さて、これらの推進に合わせ、西三河地域の母なる川である矢作川を有効に活用する取り組みのひとつとして、流域内自治体の広域的な連携による、矢作川河畔への広域自転車歩行者道の構想について話し合いをしたいと思います。

→ P5

## 広域サイクリングロード(自転車・歩行者道)の整備と利用について

○矢作川河川敷への広域サイクリングロードの整備・利用による効果として、上下流交流の促進、地域活性化、河川愛護意識の育成・向上、ゴミ問題への理解など多くの効果が期待されます。

例として

### ①上下流交流の促進

- ・流域サイクルイベント、流域マラソンイベント、  
山/川/海の連携イベント（潮干狩りや釣り、砂の運搬など）

### ②地域活性化

- ・各地域の自然や歴史/文化を巡るコース設定、イベントの取り組みなど  
山/川/海の連携イベント（潮干狩りや釣り、砂の運搬など）

### ③河川愛護意識の育成・向上

- ・河川の自然環境に親しむ
- ・ゴミ問題への理解
- ・草刈りや清掃、交流イベントなどを河川管理者/自治体/地域住民が連携し協同して取り組む

○河川空間を活かしたレクリエーション利用に資する自転車・歩行者交通ネットワークから、都市部の自動車から自転車・歩行者交通への転換を促進することにより環境負荷の低減が図れます。

○自転車をもたらす健康効果には、脂肪燃焼・ダイエット効果、下半身の筋力アップ、内臓の強化、心肺機能の向上、脳の活性化、持久力の向上、免疫機能の向上、睡眠の質の向上等があるとされています。

★矢作川流域圏懇談会の「流域連携テーマ」である、「ゴミ・流木」「土砂」「木づかい」に絡めた取り組みの話し合い。

<矢作川ディズ・木づかい市民活動・フェアトレード・流域連携>

◆根羽村では、小学生が源流から河口まで自転車で走破したことが周知されました。WGでは、下流の小学生を対象に流域を自転車で下るイベントを実施してみたいという意見が出されました。また、山村再生担い手づくり事例集の取材先に協力を得てはどうかとの意見もあがりました。次年度以降のWGにおいて部会員が試験的に体験し、その後、本格的な実施に向けた検討を行う予定です。



矢作川の源流から河口を走破した小学生の発表資料

◆木づかい活動における、自転車スタンド・テーブル・ベンチ等への利用が取り組まれています。

<土砂>

矢作ダムの堆積砂を海へ運ぶ「砂の駅」プランについて、実施主体、運搬方法、取組み方法等の検討を始めています。



# 【進めるべき方向性・方策②】

## 魅力ある水辺空間の創出





## ② 矢作川河畔の広域サイクリングロード構想

- 本プランが提案するサイクリングロードの整備と岡崎市矢作川水辺環境整備事業によるサイクリングロード整備、また既整備の豊田安城自転車道とを結ぶことにより、豊田市・岡崎市・安城市の3市にまたがる総延長約33kmの広域的な矢作川河畔サイクリングロードの整備が可能となります。今後は、河川管理者、岡崎市、安城市との広域的な連携により、具体化に向けた調整を図っていきます。



図 6.2 広域サイクリングロードの構想図

## ③ 河川愛護活動の流域圏への展開

- 豊田市域の矢作川では、草刈や清掃など地域住民による愛護活動が活発に行われ、良好な河川環境が保全されています。今後は、この活動の輪が将来的に流域全体に広がっていくことを目指し、河川管理者や流域市町村との連携や情報共有により、流域住民への河川愛護意識の高揚を図っていきます。